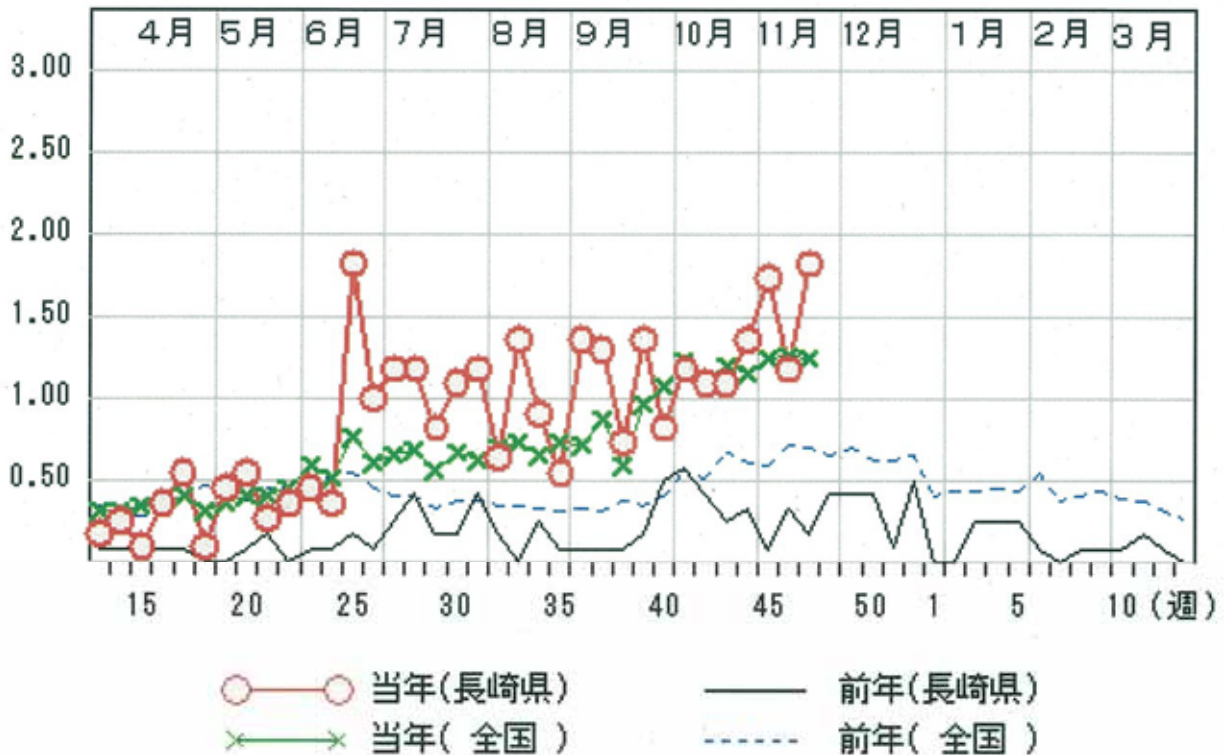




マイコプラズマ肺炎が流行しています。

人/定点

マイコプラズマ肺炎



マイコプラズマ肺炎は5～12歳の小児に特に多く、季節的に初秋から冬に多発する傾向がある疾病です。

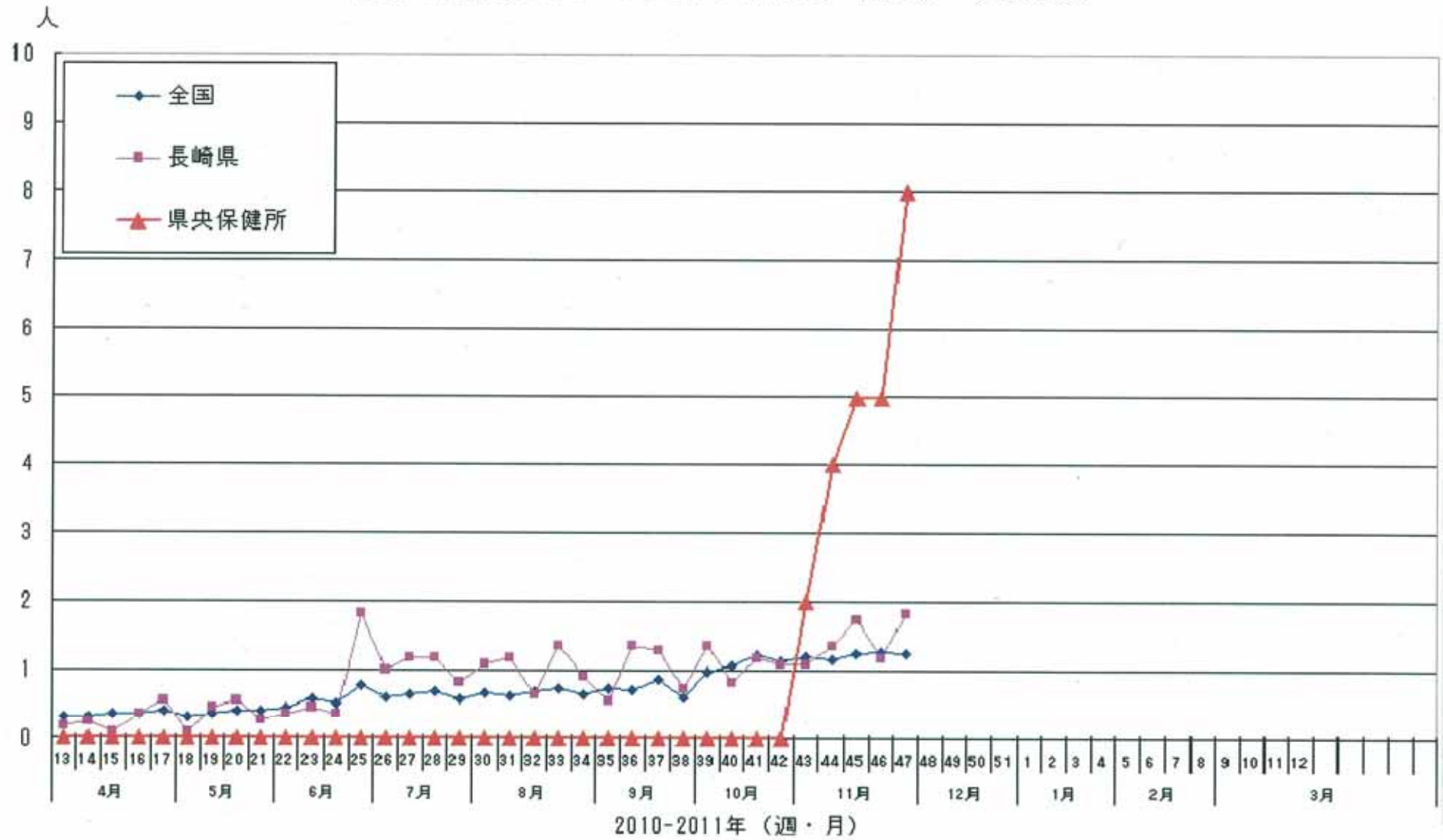
11月29日に国立感染症研究所の調査で、マイコプラズマ肺炎の週単位での患者数が、調査を始めた1999年以降、過去最大となっていることがわかりました。

全国的な流行が見られるなか、本県でも、県南、県北、五島を除く地域で報告があがっており、増加傾向にありますので今後の動向に注視していく必要がある疾病です。

マイコプラズマ肺炎は、咳、痰からの経気道飛沫感染により感染するため、学校などの施設内感染、家族内感染が多い疾病です。肺炎にしては元気で、一般状態も悪くないことも多いことから、診断が遅れることも少なくありません。微熱程度で2週間以上咳が続いたり、胸痛を訴えれば、本症も疑われますので、早期に医療機関を受診しましょう。また、手洗い、うがいを励行し、体調管理に心掛け感染防止に努めましょう。



管内の1定点あたりの マイコプラズマ肺炎 患者数 (基幹定点)



「 < > 」 インフルエンザ RSウイルス 咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎 感染性胃腸炎 水痘 手足口病 伝染性紅斑 百日咳 ヘルパンギーナ 突発性発しん 流行性耳下腺